

法輪大法

米国中部法会での説法

李 洪 志

米国中部法会での説法

李洪志

一九九九年六月二十六日 シカゴにて

皆さん、こんにちは！（拍手） またしばらく皆さんとお目にかかりませんでした。特に在席の中に新しい学習者がおり、このような法会は新しい学習者にとってなかなかない機会であり、彼らの向上にとってとても必要です。新しい学習者を促すこともできるので、今回の法会を開きました。今回のシカゴ法会の後、シカゴを中心にして、中部地区の法の勉強をまとめてください。これもとても必要なことだと思います。同時にこれを機会に皆さんと会ってみたいと思います。皆さんが最近の修煉の過程の中で、どのような向上と認識があったのか、皆さんの体験発表も聞いてみたいと思います。昨日「あなたの人生の中で最も喜ばしいと思ったことはどういうことでしょうか？」とある記者から聞かれました。もちろん、私は一生の間このことを行っており、常人のことに對して喜ばしく感じるなどのことはありませんが、学習者が体験交流しているのを聞いたり、または見たりすることは私にとって最も喜ばしいことです。（拍手） 学習者の一步一步の向上はみな容易いことではなく、多くの苦を嘗めました。現実の利益の社会の中で、人間の情の中で、心を放下し、常人と同じようにトラブルに對処しないなどのことは、口で言うだけでできることではありません。実際には非常に難しいことです。この世の利益を前にして心が動ぜず、怨みの前に微笑みながら全てに對処し、更にトラブルの中で自分の原因を探さなければならず、これは常人にはできないことです。実は関に遭っているときはとても苦しいのです。

ですから、皆さんの体験交流を見てまたは聞いたとき、皆さんが歩んだ全ての道は私に分かっています。皆さん一人一人の修煉過程は本を書けるほどです。中に皆さんに分かっていることもあれば、まだはっきりと分かっておらず、分かっていることもあります。更に背後にあるその他の要素による原因もあります。皆さんが圓滿成就したら、それぞれの修煉過程は実は皆さん自身が威徳を築き上げる過程であることを目にすることができます。その時になってはじめて、その生命の偉大さが分かるようになります。（拍手） 歴史上、どれほどの人が修煉して圓滿成就したのでしょうか？ ほとんどいませんでした。歴史から伝えてきた修煉者の物語、神話の中から皆さんは少し知っていますが、世の中にこれほど多くの人がいるのに、なぜ大部分の人が修煉することができないのでしょうか？

なぜ更に多くの人が圓滿成就することができないのでしょうか？ つまり人間は人間のことを放下することができないからです。人間はいつも人間の理をもって全てを量っており、中に現代人が科学から認識したこと、修煉界に現れた神秘的なこと、または宗教の中で人間の信仰に対する敬虔さのことなども含まれていますが、人間はいつも人間の基準と境地をもって、後天に形成されたいつもの思考様式でこの全てを量っています。これでは永遠にはっきりと分かるようにはなりません。人間が利益の中でますます現実的になり、人間がどうしても人間のことを放棄することができないので、歴史上修煉して圓滿成就した人はそれほどいませんでした。もちろん、今日私は宇宙の真法を皆さんに伝え、できないことがないという法の一面も現れ、更に現在確かに多くの人が真に修煉することができ、向上することができたから、これほど多くの大法弟子が現れ、精進しており、未来に多くの人が圓滿成就することになるのです。

なぜこれほど多くの人が学んでいるのかといつも記者に聞かれています。彼らから見れば、とても不思議なことです。記者だけではなく、世の中の多くの人がその理由を探すとこの観念を抱きながら、大法の本を読んでいます。『轉法輪』を手にとっていても、まだ探しています。なぜこれほど多くの人が学んでいるのでしょうか？ 中に一体何があるのでしょうか？ いくら読んでも結局何も見つからなかったのです。(笑) 実はこの心自体は大きな障碍です。求めずに自ずと得ることなので、人類社会の如何なることも努力と奮闘によって得ることができませんが、常人を越えていることだけが人間の考えている努力と奮闘によって手にすることができません。これとちょうど反対に、何かを探し出すという執着を放棄してはじめて、法理を得ることができるのです。これは人類社会の認識と全く逆になっています。ですから、多くの人が人間の認識を抱きながら全てを見ているので、永遠に分かるようにはなりません。なぜこれほど多くの人が学びに来たのでしょうか？ これほど多くの人に宇宙の法理が見えたからです。これだけです。なぜ多くの人に宇宙の法理が見えなかったのでしょうか？ それは人間の悟性の問題です。人間の観念と執着をもって全てを量っている人がいるのに対し、如何なる観念も抱いていない人もいます。このような人に法が見え、法の本質が見えるのです。(拍手) ひいては、後天的に形成された考えをどうしても放棄することができない人がおり、このような人は観念が混じっている考えで全てを見るように大法も見えています。何かのことが現れたら、すぐ常人の中で形成された観念をもって量りますが、彼の観念自体は正しいのでしょうか？ 間違っているのでしょうか？ 真理なのでしょうか？ 真剣に考えようとしません。これは多くの人が法を得ることができなかった原因の一つでもあります。このしばらくの修煉

を通じて、多くの学習者は確かに大幅に向上しました。古い学習者は特にそうです。皆法にのっとなって法を認識することができるように、常人と違った修煉者の境地と現れを真に表すことができ、本当に素晴らしいのです。

「なぜこれほど長く修煉したのに、多くの常人の良くない考えがやはりいつも現れ、ひいては非常に良くない考えまであるのでしょうか」と修煉の中でいつもこのように聞いてくる学習者がいます。このことについて私は既に皆さんに幾度となく説きました。修煉者が本当に人間の執着心を取り除くことは非常に難しいことです。しかし、修煉の中で執着がまだあるということは修煉が良くできていないということではありません。自分自身に執着があると感じたこと自体は修煉して向上した後の現れです。実は修煉者に現れた執着は執着が既に少なくなった後の現れです。時に現れた考えが非常に良くありませんが、その考えはそれくらい良くないからです。それは修煉していなかった常人のときに形成されたものです。常人はそういう状態なので、常人だったとき、それが良くないと気付かないのです。修煉が絶えず向上するにつれ、ますます少なくなります。しかし、完全に取り除かれるまで、ますます少なくなっても、表面ではやはりそのくらい良くありません。ですから、何年修煉しても、やはり良くない執着心があることに気づく学習者がいますが、これが原因なのです。

以前の修煉者は執着心を本当に取り除いたのではなく、良くない心と考えを抑えまたは抑制しただけです。大法を修煉している弟子だけが真に全ての執着を取り除いています。大法だけがこれをやり遂げることができるからです。

修煉者の執着心と良くない考えがますます少なく、執着心と良くない考えがその表れにおいてもますます弱くなったため、修煉者の現れは常人の現れとの区別もますます大きくなりました。修煉者としての心性の高さが功の高さになります。あなたが修煉者なので、修煉の中で執着心と良くない考えがますます少なくなったため、問題を見るとき、常人とは違ってきます。あなたの思想境地が上がったため、あなたの功も伸びてきました。思想境地が上がらなければ、功も伸びません。人間が思っているように功が高くなり、神通が備わるようになって、道を得たら、悪事をしないようにするために、徳を重んじることを強調したのではありません。徳を重んじないことは修煉者本人にとって関係ないことのようにです。そうではありません！ あなたは徳を重んじなければ、全く向上することができません。私は物質と精神が同一性のものであるということをも話しました。宇宙の全ての物質は皆真、善、忍という宇宙の法理によって造られました。全ての物質、

全ての生命要素もみな真、善、忍という特性で成されているため、この特性と一致していなければ、向上することができません。精神は物質と同一性なのです。今日は多くを話したくはありません。法会が一日しかないので、多くの方が発表しなければなりません。やはり慣例のように、午前中皆さんが発表し、時間が足りなかったら午後続けて発表してください。残った時間に私は皆さんが修煉の中で遭った問題に解答します。皆さん質問を書いたメモを提出しても良いのです。今はここまでにしましょう。(拍手)

午前中と午後の数時間の間に学習者は体験を発表しています。とても素晴らしく語りました。しかも、法に対して高いレベルまで認識した学習者がおり、これは非常に素晴らしいことです。つまり、私たちの法会は目的に達成しました。学習者がお互いに体験を語り合い、交流しあうことによって、もっと多くの方が自分の修煉の足りないところと差に気づくことができました。他の人の修煉を見て、自分がどのようにして追いつくのかという状況です。実際にこういう作用が働かなければなりません。個人の修煉を形式的なものにしてはならず、本当に学習者を向上させる作用がなければなりません。この法会は成功裏に行われたと思います。それでは、午後の時間を使って皆さんの質問に答えます。

弟子：多くの方が私と同じように分からないのは、煉功の時、第二式と第五式以外の功法の回数はやりたい分だけをやってもよろしいのでしょうか？ 九回やってもいいのかということです。

師：私が思うには問題はないと思います。特殊な状況で、時間があれば多くやっても大丈夫ですが、時間がなければ、少なくしても良いのです。しかし、通常において皆さんは今要求されている煉功の回数にしたがって行うべきであり、これでほぼ皆さんの修煉を保障することができます。特に皆さんと一緒に煉功する時に統一しなければなりません。もちろん、時間があって、更に多く行えば、もっと良いのです。大法の今日の修煉は常人社会で行われており、皆さんの修煉は常人社会の形式と結び付けなければならないので、煉功を多くするようにと要求すれば、仕事と勉学に影響してしまう可能性があり、この関係を正しく扱うことができなくなります。皆さんの修煉を目的に達成させるために、私はこの点について既に十分考慮しており、要求されている回数通りにやれば、目的に達することができます。しかし、多く行っても問題はありません。どうしても忙しい時は、煉功を少なくして、いつか機会があればそれを補えばいいと私が言ったからです。煉功は自分の時間に応じて調整しても良いのですが、心性の向上と法の勉強においてはいい加減にしてはなりません。時間がなくても、時間を作って本を読まな

ければなりません。このことに対して気をつけるべきです。

弟子：言い換えれば、五式の功法はそれぞれ何回すれば良いのでしょうか？

師：本の中の要求に従っていれば、十分です。時間があれば多くしても大丈夫です。テープの時間と同じようにやれば、要求に達しています。

弟子：先生がカナダの法会で、母親の子供に対する愛が修煉者の執着になってはいけなとおっしゃいました。ありがとうございます。私はその母親です。今息子に『轉法輪』を買って与えました。

師：母親は子供を可愛がるものであり、母性愛はこの世でなくてはならないものです。しかし、修煉者として、この愛を更に高尚で広義なものにすべきであり、更に多くの人が慈悲を感じられるようにすべきです。全ての子供が大法弟子の慈悲を感じられるようにし、この心を全ての人に対して慈悲深いものまで拡大すべきです。これは更に素晴らしいことです。同時に修煉の中で皆さんはあることに気をつけるべきです。大法弟子は常人の中で修煉しており、家庭、親族友人との関係を正しく扱うべきです。善をもって接し、慈悲でなければなりません。人為的に誰に対しても冷たく振舞ってはなりません。これは正しくありません。修煉者が本当に情に対する執着を放棄した時と、皆さんがどうしてもこのように行わなければならない時のこととは全く違います。ですから、向上は漸進の過程の中で現れた異なる状態です。修煉の過程の中で、子供を可愛がり、年寄りを思いやるのは間違っておらず、修煉者としても間違っていないです。大事なものは執着しすぎてはいけません。修煉者は他でもなく、執着だけはあってははいけません。如何なる縄があなたを縛っていても、あなたはここから離れることができません。

弟子：この美しい地球は今人類の暴力と工業汚染にひどく破壊されています。(一) この脆弱で敏感な地球はいつまで続くのでしょうか？

師：今私はこれらにこれらに触れないほうが良いと思います。私が真実を話しても、人間はすぐにはそれを信じることはできません。修煉者は地球がいつまで続くのかということについて関心を持つ必要はありません。地球の持続時間はあなたの個人の修煉と関係ないからです。あなたは常人を超え、完全に超常な人間の状態にならなければなりません。返本帰真と修煉の中で、あなたは既に少しずつ常人の状態から離れています。如何なる天災人災もあなたと関係ありません。ですから、このことを気にしないほうが良いのです。

弟子：(二) 法輪大法の修煉者として、私の慈悲は地球および各種の生物まで及

ぶべきなののでしょうか？

師：修煉者の慈悲は広義的なものです。私たちは全ての衆生に対して慈悲を持つべきです。なぜならば、全ての衆生が苦の中で生きているからです。しかし、動物を人間と同じように対処してはいけません。なぜでしょうか？ 皆さんにある真実を教えますが、地球の繁栄は人類のために造られたのです。全ての生物は、植物と動物をも含めて、皆人間のために存在しているのです。ですから、決して生物を人間と混同してはいけません。他の生物に対する慈悲と愛護は決して人間に対する思いやりを超えてはなりません。全ての衆生を見て、苦しく感じ、それらに対して慈悲を持ってもよいのですが、決して人間と同じく対処してはいけません。

弟子：地球は疾病、火山などの自然災害を通じて自らを守ることがあるのでしょうか？

師：地球上の全ては偶然に存在するものではなく、起きた全ても偶然ではありません。全てに原因があります。しかし、あなたが認識しているようなことではなく、神がこの次元の法理と生命を守っています。自然災害と疾病は人為的な原因によって引き起こされたのであって、つまり人類の業力が重くなったからです。人間の心が非常に悪くなった時、土地が瘠せてしまい、水が不足し、自然災害が多くなり、火山と地震などが起こりえるのです。この全ては人間のために造られているのであって、人間が良くなれば、全てが良くなり、人間が悪くなれば、全てが悪くなります。

弟子：人間はどのように地球の良い住民になることができるのでしょうか？

師：道徳を高めることです。人類がもし道徳を人類の最も良い状態に昇華させることができれば、自然災害と人類を脅かす各種の疾病、戦争はきっと減少します。もし人類の道徳が昇華することができなければ、全てが起こり得るのです。実は全てがだめになったのは人間の心がだめになったからです。先ほど皆さんにお話ししましたが、この地球は人類のために造られ、人類のために成されたのであって、人間がだめになったら、それと連動して全てもだめになります。

弟子：私は幾度となくほかの人または自分の身に起きた神秘めいたことを見たり聞いたりしました。以前起きたことのあることだと分かっていますが、詳細を思い出すことができません。しかし、以前見たり聞いたりしたことだったとはっきり分かっていますが、もう一回同じことが起きるまで、詳細を覚えていません。これはなぜでしょうか？

師：これは一種の感知機能であり、以前または未来のことを感じ取ったのです。宇宙の構造に異なる時間と空間が存在しています。この問題は『法輪功』と『轉法輪』の中で既に言及しました。私たちのこの空間の全ては皆分子によって構成されており、空気や鉄、このマイク、人間の身体と目などもそうであるため、人間に見えたのは分子で構成された世界です。しかし、分子は宇宙の中の唯一の粒子ではなく、更にミクロ的な粒子によって構成されています。分子は私たち人間に見えたこの人類の生存環境を構成することができます。人間に見える分子粒子より小さい粒子で構成された世界は、人間の目で見ることができなくなります。人間はそのような目、つまりそれほどミクロの粒子によって構成された目を備えてはじめて、その次元を見ることができます。修煉者に見えることができるのは修煉の中で更にミクロ的な目が開かれたからです。実はミクロの粒子もそれよりもミクロの粒子によって構成されています。ですから、各層の粒子に目の存在形式があります。修煉者はその目を使えるようにし、人間のこの空間とつながったら、あなたに他の空間が見えるのです。これは他の角度から天目についてお話ししました。

弟子：私はトロント法会で発表した後、多くの人から発表の原稿がほしいと言われました。西洋人に対する弘法にメリットがあると言っていますが、私は自分の原稿を配ってもよろしいでしょうか？

師：目的があって弘法のために使うのであれば大丈夫です。配ったら配ったで大丈夫です。しかし、使った後、それを学習したりまたは回して皆で読んだりすることはしないでください。法に影響しないでください。組織して配ったりしてはいけません。特殊な状況下で弘法の時必要があれば、配ったら配ったで、これは別のことになります。

弟子：多くの地区から李先生への真摯な挨拶が寄せられました。数が多いので、以下のようにまとめて読み上げます。中国大陸の遼寧省葫蘆島市、威海、瀋陽、広州、昆明、鄭州、重慶、寧波、盤錦、保定、十堰、南京、ハルピン、天津、遼寧營口、平頂山、広東中山、秦皇島、石家荘、北京、煙台、湘潭からのご挨拶で、皆さん、とても師父にお会いしたいと思っています。また、いくら大きな妨害と試練に遭っても、彼らの大法を堅く修める決心と気持ちを揺るがすことができず、師父に必ずいい答えを出しますので、師父ご安心くださいということです。(拍手) 米国ワシントン地区、ミシガン州、ヒューストン、フロリダ、カリフォルニア州、シカゴ、シンガポール、カナダ、トロント、インドネシアの弟子は師父に最高の敬意を表したいと思います。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：全ての学習者は大法を確固として修め、圓滿成就にいたるまで勇猛邁進すると言っています。

師：学習者は非常に素晴らしいのです。このように大法を認識することができたのは、修煉の中で大法に対する深い理解と修煉そのものに対する深い認識があったからです。これがあったからこのようにすることができました。

弟子：師父にお伺いしますが、イエスが十字架に磔にされたときに、彼の弟子は何をやっていたのでしょうか？ 師父にお願いしますが、大法弟子はこのようなことが現れることを決して許さないということを世の人々と天上にお伝えください。

師：(熱烈な拍手) ありがとうございます！ 修煉者は常人の考えに動かされず、皆さんは皆修煉者です。皆さんの大法と師父に対する気持ちに感謝します。皆さんの気持ちは師父に分かっています。

弟子：弟子が業を滅しているとき、自分が苦しければ苦しいほど、師父のことをつらく感じています。師父はまた弟子のためにどのくらい受け持ってくださいましたのかが知れません。

師：師父のこと、これらのことを考えすぎないようにしてください。

弟子：ある脳梗塞の患者のために、師父はお茶碗いっぱい毒薬を飲まされましたが、ガン患者、死刑を言い渡された人のために、一億以上の弟子のために、師父はどのくらい受け持ってくださいましたのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、在席の皆さんが修煉者なので、師父のいくらかの状況を感じ取ることができます。実は私のことは勝手に明かされてはいけません。しかも、常人社会で話してはいけないとますます感じました。人間はこれらのことをますます受け入れられなくなり、分からなくなったからです。将来皆さんが全てを知るようになり、あなたが圓滿成就さえすることができれば、自分自身の偉大さと師父が皆さんに対して申し訳が立っているということに気づくのです。

(拍手)

弟子：大法の国内での状況を私が理解することができます。全ての国内の修煉弟子にとってこれは圓滿成就に向かっていくための大きな試練です。しかし、海外の弟子は依然として圧力のない状況下で心地よく修煉しています。私たちはどの

ように圓滿成就するのでしょうか？

師：このように物事を見てはいけません。大法弟子は一つの全体を成しています。海外は海外の状況があります。皆さん考えてみてください、生活に困難のある学習者は大法を確固として修めており、食事に困っても大法を放棄しません。中国からアメリカに來ている学習者の多くはレストランで働いたり、ひいては非常に下等な仕事をしたりしてやっと今日まで至ったのです。時に大きな試練に直面し、ひいてはあなたの前途と将来に影響していますが、それでも心が動じていなければ、もう十分です。誰でも同じ問題に遭遇しなければならないということではありません。実は私が思うには、この大きな難は学習者に対してやってきたのではなく、大法全体に対してやってきたのです。このような困難を前にし、正しく歩むことができれば、これは極めて重要なことです。法の偉大さは修煉者の偉大さを表すことができます。なぜならば、大法がこの世で表した金剛不破は大法の全ての構成員、一人一人が極めて重要だからです。多くの魔難の中、皆さんは乗り越えてきたと思います。大法は試練を受けたことがあります。(拍手)

弟子：中国に帰って陳情した学習者がいます。

師：これらのことは個人でしないでください。実は、中国政府は私たちの状況を十分分かっていると思います。これらの人が皆良い人だと分かっています。これからどのように私たちに対処するのかは、私と皆さんも見えています。こういうことです。

弟子：大法の仕事をしている弟子は時に非常に忙しくて、法の勉強と煉功の時間も少なく、心もなかなか静かになりませんが、この状況にどのように対処すべきなのでしょう？

師：いくら忙しくても、大法の仕事をしているにしても、法の勉強を第一位にすべきです。このようにするしかありません。学習者にとって、それぞれ自分の仕事、家庭、社会でのことがあり、更に法を勉強し煉功もしなければなりません、確かに非常に難しいのです。難しいから、覚者に向かっていく道のりで威徳を築き上げているかもしれません。もう一つのことですが、ほぼ全ての大法弟子は当時法を容易く得たではありません。誰かが扉を遮ってあなたが入ってこないようにしているということを行っているではありません。多くの場合は、心性の試練に現れており、あなたの心がどのように動くかを見えています。法を得るかどうかの問題に対して、あなたの心がどのように動くか、どのように対処するのかを見えています。乗り越えることのできる人がいます。以前の多くの学習者は皆知っていますが、私が中国で講習班を開いた時、私が講習班を開けば、百メートル

も離れていないところで、必ずある偽気功師も講習班を開いていました。邪悪は人に正法を得てほしくありません。人間を試すなどと言って、あなたがどの門に入るかを見えています。往々にしてこういう状況です。釈迦牟尼が当時法を伝えた時、ご存知のように多くの邪な法門が邪魔していました。このような邪魔の中であなたがどの門に入るのかを見るしかありません。自分自身で選択するしかありません。老子が法を伝えた時、諸子百家の各種の学説が現れましたが、どの門に入るか自分で決めるしかありません。如何なる時期においても、正法が伝えられていれば、必ずそういうことが現れます。普通の修煉に対してこのように按排しても良いのですが、今日の法を正すことに対してこのように按排したら、法を正すことを破壊することになり、決して認めてはならず、徹底的に否定すべきです。

弟子：国内弟子が書いた公開状を西側諸国の中国語紙に掲載すべきだと思いますが、レベルの高い内容を書いており、政治的な性質があると言っている学習者もいます。どのように対処すべきなのでしょう？

師：これらのことは各地の責任者が判断してください。政治に参加しないでください。他の人が私たちにこのように対処していますが、私たちは同じように相手に対処してはいけません。如何なる状況下でも、政治に参加しません。

弟子：ミクロ的な粒子からマクロ的な粒子までの構造からみれば、人体の分子は最小でもなく、最大でもありません。人類社会が法の最も低い次元での現れであるという法理をどのように理解すべきなのでしょう？

師：これはとても簡単なことです。この宇宙の中心は最大な粒子によって構成されているはずはありません。最大な粒子であれば、宇宙の外殻になってしまいます。ですから、宇宙の中心はちょうど大きい粒子と小さい粒子の間にある中間粒子によって構成されており、最もミクロ的な粒子と宇宙全体の外殻にある最大の粒子の中間にあります。ですから、全ての粒子の中間に位置しており、それではじめて宇宙の中心位置になります。人体もこの次元の粒子によって構成されています。

弟子：大量な時間を使って、ネットで佛教の居士と議論し、彼らの質問に答えている弟子がいます。このやり方を通じて彼らに法を得てほしいと思っています。こういうやり方は有効なのでしょう？

師：これは別に問題はないと思います。しかし、気をつけるべきことは、くれぐれも相手と議論にならないでください。佛は縁のある人を済度しており、本人が法を得たくなければ、仕方がありません。法理を相手に教えるしかありません。

せいぜい善を勧めるだけです。相手と議論しないでください。彼らに罵られても相手と同じようにしないでください。彼らも人間だからです。出家者が正法を得なければ、彼らも常人なのです。

弟子： 佛教の居士に法を得てほしいと思って、本を読み煉功する時間も少なくなりました。これは魔または業力に妨害されたのでしょうか？

師： それなら、割が合わないかもしれません。人に法を得てもらうことは良いことです。もし煉功も終わって、本も読んで、少し休憩する時に、ネットでこういうことをすれば大丈夫です。このことのために皆さんの修煉が影響されたら、割りが合わなくなります。それだったら、このようにしないでください。

弟子： 道家は主に「真」を修煉し、佛家は主に「善」を修煉しましたが、「忍」を重点的に修煉する法門があるのでしょうか？

師： 苦を嘗めることは業を滅する作用を働くことがあります。しかし、たくさんの苦を嘗めても、たくさんの業を滅することができるとは限りません。なぜならば、修煉せずに業を滅するだけだったら、多くの業を滅することはなかなか難しいことであり、多くの苦に耐えることができません。以前釈迦牟尼時代にもっぱら苦を修める人がおり、わざわざ苦を嘗めていたのです。このような人は昔からずっといます。寒い中、自分を寒くし、鞭で自分を引っ張ったり、ナイフで自分を切りつけたりしています。このような修煉は小道または邪道と見なされています。正法を得て大道を歩まなければ、私が思うには、最終的に正果を得ることができません。ですから、三界を出るまで修煉するのが難しいのです。また、もう一種の執着になりやすいのです。つまり、業を滅するために業を滅することになります。

弟子： 弟子は大法を堅く信じていますが、妻が常人でどうしても墮胎しようとしているので、私はとても困っています。

師： 現在複雑なことは本当に多いですね。このようにしないでくださいと忠告するしかありません。墮胎は人間にとって犯罪なのです。ご存知のように、如何なる物体も生じた途端に既に命を持つようになるのです。工場が製造した機械、製品も同じです。何かのものを作ったりして、製品が現れたら、他の空間である霊体が注がれます。ですから、どんなものも生き物です。妊娠中の赤ちゃんははっきり言えば、人間なのです。中絶したら、殺生になり、人を殺すことになります。まだ生まれてはいませんが、墮胎はつまり殺人です。人間は赤ちゃんがお腹にいてまだ生まれていないから、中絶してもたいしたことはないと思っているかもし

れませんが、これは現代の観念が変異した人間が思っていることです。神と常人を超えている全ての高級生命はこのように見ていません。ご存知のように、生命が転生するときに母体に入るのですが、母体に入ったら、その生命はこの世の生命の輪廻に入ります。神は既に彼の未来を按排しました。しかし、生まれてもいないのに、殺されたら、皆さん考えてみてください、この生命はどこに行くのでしょうか？ 按排の通りの数十年後の臨終まで待たなければならず、人間なら七、八十年後に死んでから、やっと次の輪廻に入るのです。その時、彼を守る神が出てきます。小さい命を殺したばかりでなく、極めて苦痛な境地においてしまったのです。しかし、まだそれほど若い命なのです。本当にかわいそうです。そうではありませんか？

弟子：『轉法輪』の117ページに、「末法時期に正法を伝えるのもこれが最後です」と書いてあります。師父にお伺いしたいのですが、歴史の未来にこれほど大きな法が伝えられることはもうないというように理解してもよろしいでしょうか？

師：まず末法時期とは何かを説明しておきます。末法時期の意味を皆さんに教えます。社会の常人や記者は分かっていませんが、分かっているふりをしています。末法時期を聞くと、すぐ「大変だ、法輪功が世界の終末を言っている」と言うのです。彼には全くどういうことなのかがわかっていません。末法時期という言葉は釈迦牟尼佛が言った言葉です。どういう意味なのでしょう？ 釈迦牟尼は「私が在世中とこの世を去ってからの五百年の間、人々が私の法に従って修煉することができ、済度されることができ、五百年後、私が伝えた法が末法時期に入ります」と言いました。末法というのは法が最後の時期に入り、既にだめになった時のことです。つまりこの法で人を済度することができなくなったということです。末法だから、どのように人を済度するのでしょうか？ つまり彼が伝えた法の最後の時期という意味であり、宇宙の劫難とは全く関係ありません。しかも、今は末法時期の末法時期です。釈迦牟尼がこの世を去ってから既に二千五百年も過ぎ、釈迦牟尼が言った五百年より四倍の時間も過ぎました。末法の末法までなくなりました。しかし、人間は佛に対してやはり尊敬の意があり、信仰しているので、まだ佛教の形式を維持していますが、圓滿成就するのは既に難しいのです。未来宇宙の大法が伝えられるということは多分もうないと思います。私は二度と来ることがないかもしれません。

弟子：修煉が終わる前に法を得た人に圓滿成就する機会があるのでしょうか？

師：この話をするのは時期的にまだ早いのです。大法の今の修煉弟子は将来の修煉者と同じではありません。今は法を正しており、皆さんは法を正す中の最も低

い次元で法を得た人で、同時にこの世で大法を圓容することに参与している一員でもあります。つまり、皆さんの今の修煉は法を正すということと関係しており、本当の偉大さはここにあります。この世で師父を手伝って法を実証することこそ、最も偉大なのです。ですから、皆さんは歴史上のほかの修煉のように、なかなか法を得ることができないということはありません。しかも、将来心を落ち着かせ、大法を安定させることができ、これは非常に素晴らしいことです。あなた個人の心性だけを見るのではなく、同時に法に対しても貢献しました。これが最も偉大なところなのです。未来の人が修煉する時、こういう状況ではなく、その時の人だけがただの修煉者であり、ただの個人修煉です。もちろん、未来の人も私が伝えた大法に基づいて修煉するので、多くの人、たくさんの人が済度されるのです。将来このようになり、これもある時期に限定されていることですが、更にその後、この法は人間に伝えなくなります。この法は未来の人の文化として残すことができず、これは絶対してはいけないことです。

弟子：如来佛の天国は彼の玄関によって演化されて出来上がったのでしょうか？ それとも彼自ら作ったものなのでしょうか？

師：如来とは何でしょうか？ 如来そのものの意味は、如意の法理をもってこの世にやってきて、圓容不破の如意の真の法理をもってやってきたと言う意味です。このように翻訳すればよいのです。これは中国語ではなく、古代の梵語です。天上では如来を法王と呼んでいます。如来は自分の天国世界を持っているため、自分の天国世界を管理しなければなりません。如来は善を持って自分の世界を管理しており、慈悲をもって衆生を善に感化しています。人間の行政手段のようなものではなく、こういうことではありません。それでは、彼の世界はどのように生じたのでしょうか？ 二通りの状況があります。一つは大部分の佛、道、神と衆生はそもそもその境地で生じた生命です。もう一つは、修煉の過程で彼の威徳と同時に造られたものです。具体的に言えば、初期の修煉の中で玄関の修煉方式によって出来上がったその部分です。神佛の状況は人間の言葉でいうと、それほど素晴らしくはなくなります。修煉の過程でそれを玄関と呼んで良いのですが、偉大な佛が圓滿成就し、彼の世界と同時に圓滿成就することが既に現実となった時、このように言うてはいけなくなります。それなら、不敬な言葉になります。彼の偉大な全ては佛と佛の世界の莊嚴さと偉大さの現れとなったのです。

弟子：師父がお書きになった「私の感想」を読んだ後、とても悲しく思っている学習者がおり、あのことが起こらないようにいろいろなところに手紙を出しています。

師：私を引き渡すということがデマだと中国政府は既に言いました。誰が作ったデマかにかかわらず、デマだと既に言ったら、つまりこのことはもうないということです。このことがなくなっても、きっと出所のあることです。これは中国政府がやったことではなく、法輪功を利用して地位を手に入れたい下心のある人がやったことであり、法輪功を中国政府と対立の立場に立たせたいと思っている人がやったことです。

弟子：最近国内で起きた全てのことは、国内の弟子が圓滿成就できるかどうかを試している以外、大法そのものを破壊しようとする要素も入っているのでしょうか？

師：これらのことに皆さんもう関わらないでください。中国政府が既に 27 号決定を出した以上、過ぎたことは過ぎたことにしましょう。皆さんはそもそも修煉者であり、常人のことに執着していません。常人がしたことが正しくても、間違っているとしても、私たちは気にすることなく、何も起こらなかったかのように対処します。しかし、私たちにどのように対処するかすることにいたっては、それは彼らのことであり、私たちはただ修煉をすれば良いのです。師父である私も観察しています。皆さんはそれらのことをこれ以上言わないでください。しかし、中国国内の学習者が修煉のため、迫害されたら、私と海外の学習者はもちろん注目しなければなりません。これは確かなことです。

高次元空間から見れば、旧勢力が低次元空間の良くない生命を利用して破壊しているということです。

弟子：あなたの敵を愛することができなければ圓滿成就することができないと先生がおっしゃいましたが、私はどうしても先生と大法を攻撃する人を愛することができません。

師：(笑)「皆さんは修煉者ですが、私は違います。私は皆さんに法を伝える人です」と私が言ったのを皆さん覚えていると思います。皆さん考えてみてください、宇宙の法理が宇宙の異なる次元の生命、異なる状態の生命のために彼らの生存環境を切り開き、異なる次元の生命を造成したのですが、人間が宇宙の法まで反対していれば、この生命は宇宙のどこに行くのでしょうか？ 宇宙に彼の位置はありません。このような人は法を超えるほど悪いので、悪人ではありませんか？ 法理を破壊する人は皆さん個人の敵と永遠に同じにしてはいけません。皆さんが自分の敵を愛するべきだとはどういう意味なのでしょう？ 皆さんが皆修煉しており、慈悲でなければならぬからです。自分に優しい人だけに対して慈悲の心を持っており、そうではない人に対して慈悲の心を持たないということにとどま

ってはならず、それならば、常人の中の優しさとはどこが違うのでしょうか？ 何の区別もありません。皆さんは修煉者なので、常人の境地を超えなければならず、常人の境地を超えるべきです。常人は次元がこのくらい低くて、あなたは次元がこれほど高いのに、自分よりはるかに低い人を敵にするべきなのでしょう？ 相手を敵にした時、あなたも相手の次元まで低くなり、常人の次元まで低くなったのではありませんか？ そうではありませんか？ ですから、神は人間を敵にしたことはなく、人間にそういう資格もありません。慈悲の角度から言っても、人間を敵にしてはいけません。

しかし、法を破壊することと法を正すこととは全く違います。知らない状況下で同調してもいけません。人間が如何なることをしても、責任を取らなければなりません。在席の全ての修煉者は歴史上やったことに対して同様に耐えてきました。人間は何をしても、それに対して責任を取らなければなりません。受動的でそうしたとか、でまかせで言ったとか、または圧力の前で言った、やったとか、あるいは邪悪に操られてやったとかを言って、責任を取らなくても良いと思っ
ていますが、全く関係ありません。これらのことは言い訳にはなりません。

弟子：今になって、やっと師父が最も慈悲深い方法を取っていることと、この世で法を正すことがこれほど難しいと感じたのです。上の空間で法を正す時、ここで法を正す時より、更に難しいのでしょうか？ ご教示願います。

師：(笑) 実は、上の空間にいる生命は人間のようによくの悪い考えを持っているのではなく、こういう生命に人間の考えはありません。しかし、自分の観念を固守することはあります。全ての生命は良い時期から腐敗堕落してきた時、自分自身が気づいていないのです。衆生は皆自分自身が堕落したことに気づいていません。衆生は自分を自分より劣っている生命と比べがちで、他の人よりましだと思っています。皆このように量っています。実は自分を堕落してしまった人と比較しており、生命に対する宇宙の基準と比べているのではありません。神は人間の考えを持っていませんが、その境地の元々の基準と合わなくなりました。法を正す中で、彼らは自分を守るため、一種の勢力と障碍を形成し、法を正すことを妨害し、ひいては法を正すことを破壊しています。宇宙の法理は変わっておらず、誰が何をやっても、自分で償わなければなりません。

弟子：先生と大法がわたし達に多くのことを与えましたが、わたし達の払った代価があまりに少ないと痛感しました。特に大法と国内の弟子がこれほど厳しい試練を受けている時、私たちは確固として着実に修煉する以外に、何をすれば良い

のでしょうか？

師：皆さんは精進して着実に修煉すれば良いのです。皆さんの煉功を妨害する人さえいなければ、天上の衆生とこの世の衆生は救われます。誰であっても、法を正すことを妨害したら淘汰されるからです。実は大法弟子は修煉のためにそうしただけに過ぎず、多くのことを求めています。わたし達を理解できない一部のの人に時間を与えて認識してもらえば良いのです。私達を罵ったり攻撃したりしていますが、私達とは彼らと同じように対処せず、自分の修煉をすれば十分です。人間は何をしても、自分で責任を取らなければならず、これは間違いのないことです。

弟子：大連の弟子は師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：この間、一部の補導員、ひいては站长まで家の師父の法像と大法の本を隠してしまい、学習者にもこのように教えました。法と大法の本を守るためとっています。

師：このことをもう言わないでください。大法が傷つけられ、または損失を蒙っていることを見て、人間の方法でその場を凌ごうと思っていますが、間違いとはいえません。しかし、皆さんはできるだけ大法の本を守ってください。このようにしたほうが良いのです。もし恐れる心があるから、そうしたのであれば、大法弟子の要求に合っていないことになります。

弟子：新疆庫爾勒の全ての大法弟子は師父にご挨拶申し上げます。

師：ありがとうございます。

弟子：たくさんあるので、一緒に読み上げます。牡丹江の弟子は師父にご挨拶を申し上げます。北京人定湖公園、大慶の数万人の大法弟子、南昌八一公園全ての大法弟子、北京航空部および第六設計院の弟子、台湾の弟子は師父にお会いしたいと思っています。テキサス州オースティンの全ての大法弟子、秦皇島の大法弟子、第一軍医大学の大法弟子、深せんの弟子は尊敬する師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。本当に素晴らしいです。これらの弟子は本当に素晴らしいのです。

弟子：河北、山海関、朝陽、湖北の潜江、アメリカ中部の弟子は師父にご挨拶を

申し上げます。

師：ありがとうございます。

弟子：何年も大法を学び、毎日法の勉強もしていますが、現在の情勢が少しでも複雑になったら、どうしたら良いのか分からなくなります。他の人が言ったことは全部理にかなっているように聞こえますが、自分が法に基づいて物事を考えることができません。ひいては肝心な問題を避け、ただ機械的に忍んでおり、内心では自分が過ちを犯さないようにと考えています。この執着はどのように取り除けば良いのでしょうか？

師：これは別にたいした問題ではなく、ただ決心のことだけです。最も良い方法は法を多く勉強することだと思います。正念を堅めれば執着は取り除きやすくなります。法をもって正誤を判断してください。実は法を多く勉強すること自体は良くないものを取り除いているのです。

弟子：先生は『長春説法』の 77 ページで、「いつも死んだ人を模範にしており、生きている人を模範にしない」とありますが、ご教示願います。

師：つまり、以前いつも死んだ人を模範として立てていたということです。生前これほど偉大だったと言って、死んでからその人を記念するようにします。生きている人を記念せず、このようにしていません。なぜならば、生きている人はある日また過ちを犯すかもしれませんので、いったん模範として立てたら、また否定するのはよくありません。ですから、いつも死んだ人を模範として立て、生きている人を模範にしません。これは人間のことです！ 実はある人が素晴らしいと評価している時、この人の何もかもが全部素晴らしいと言う必要はありません。常人に過ちはないということがあり得るのでしょうか？ そうでなければ、彼のどの面において素晴らしいのかを言えば良いのであって、また過ちを犯すことを心配する必要もありません。人間に間違いがあり、間違いをまた起こすことはあり得ることです。この面において人間の智慧は本当に限られています。

弟子：何かの活動をするかどうかを決める時、補導站の責任者または総補導站の責任者の同意を得なければならないのでしょうか？ もしそうであれば、どのように彼らが悟ったことが正しいと保証することができるのでしょうか？

師：あなたのことは私に分かっています。人間はいつも人間の考えで修煉者を図ろうとしていますが、永遠に分かるようにはなりません。今日はっきり言っておきますが、あなたは常人の観念で私と法輪大法の人々を図るのであれば、永遠に分かるようにならず、いくら研究しても納得はいきません。中南海に行った学習

者になぜこれほどまとまっております、紀律があるのかと言っている人がいますが、学習者は皆心の中で可笑しいと思っています。なぜならば、まとまっておりますか、紀律があるという言葉は可笑しいからです。今になっても常人社会はわたし達を理解することができず、まだこの言葉を使っています。彼らは永遠に修煉者を理解することができないからです。わたし達は命令する必要も動員する必要もありません。皆意識的にまたは無意識のうちに、一人でいるときも皆と一緒にいるときも、非常に正しく行っています。修煉者はどのように行うべきかを分かっています。修煉者は悪いことをしてはならず、良いことをすべきだと分かっています。どんな状況下でも良い人であるように自らを保たなければならないと修煉者に分かっています。ご存知のように、中南海に行った人はスローガンはありませんでした。何で誰もスローガンを言わなかったのか、何でこれほどまとまっております、誰も動かないのか、軍隊でさえ訓練しないところまですることができないと思う人がいます。しかし、今日の人類社会の常人の誰もが、人類が腐敗した根本的な原因が人間の心、考えと道徳が腐敗したからだと分かっています。もし人間の心が正しくなり、考えと道徳レベルが高まったら、まとめる必要もなく、何を行っても正しく行わなければならないと人々自身は分かるようになります。多くの人が知っているように、煉功が始まる前、おしゃべりをする人、歩いている人、何でもする人がいますが、音楽が流れると、皆一斉にそろって、それを動員する人もまとめる人もいませんが、皆まっすぐに立ち、兵隊よりも整然としています。

(拍手) 修煉者はどこにおいても正しく行うべきだと分かっております、大法の中にいるときはなおさらです。これは常人には理解できないことです。学習者は中南海から離れる前に、警察官が吸ったタバコの吸殻まで拾い、地面は非常にきれいで、紙くずもありませんでした。(拍手) これを見て、なんと厳しい紀律だろうと思っています。実はこれらの修煉者は本当に常人に理解されなくなりました。常人の考えと大法を修煉している人の考えとはあまりにかけ離れています。彼らは常人であり、永遠に人間の利己的な考えで全てを見るのです。人間の考えはまた非常に複雑で、政治、経済の仕事をする人もいれば、記者と警察官もいます。彼らは後天的に形成した異なる観念をもってこの世界と全ての物事を見るのです。しかし、これらの修煉者が常人を超えているので、彼らは常人の観念をもって修煉者を理解することができず、修煉者をはっきりと認識することもできません。大法学習者はどこにおいても正しく行うのです。まさに言われたとおり、法輪功は全世界の如何なる政府と民族にとっても、百利あつて一害なしです。(拍手)

弟子：天象の変化だから、秦の始皇帝はいくら多くの人を殺しても業力がないのでしょうか？

師：違います。自分の人柄と関係している場合もあり、天象によってもたらされた場合もあります。秦の始皇帝が中国を統一することは歴史上必然なことであり、天象によってもたらされたことです。政権の交代も同じであり、この動きは天上の神が既に用意したので、そのようになったのです。しかし、この過程でどういう手段で世の人々に対処するのかについては、それはその人の選択です。ですから、ある常人が権力と地位を持つようになったら、どのように行動するのか、生活の過程でどのように行うかはその人自身のことです。自分の有利な条件を利用してたくさんの善いことをした人がいるかもしれませんが、このような人は来世福報を得ます。一生の間に報われきれない場合、来世更に福報を得ます。幾世において高官になるかもしれません。いずれにせよ、あまりにたくさんの福があると、一生では享受しきれません。また、権力を利用して多くの悪事をした人もいるかもしれません。このような人は道徳レベルが高くなく、度胸もなければ、多くの悪事を働くかもしれません。悪事を多くしたら、寿命を縮めてしまい、来世悪報を得ることになります。悪報だから、皆さん考えてみてください、お金や権力もなく、こじきをして苦を嘗めなければなりません。あまりに悪かったら、一生では償いきれず、幾世も償わなければなりません。年配の人が難に見舞われている人を見て、いつも前世に善いことをしなかったと言っていますが、(笑) 本当にそのとおりです。

弟子：縁も物質であり、これは正しいでしょうか？ どのように縁を理解すべきなのでしょう？

師：一途に思い込んでしまったようですね。もちろん、物質の要素があることを否認することができません。縁とは何かについて、私は既に明白に説きました。縁は一種の表れであり、同時に実質的なつながりでもあります。しかし、この実質的なつながりは常人の状態に現れていません。この人とあの人を線で繋げ、どこへ行っても繋がっているというようなことではありません。それは他の空間で現れており、人間にはそれが見えません。ですから、人間はそれを説明することができず、縁という名前を付け、縁があると言っています。もちろん、この宇宙中の全ては実は皆物質です。精神はつまり物質であり、物質はつまり精神であると私は言いました。

弟子：全ての正法の中で男性は女性より次元が高いと言っているようです。多くの徳を積まないと男性の体に転生することができないと佛教は言っています。佛が男性の姿であり、女性の姿は実質的な意義はないようです。先生は男性の姿を選びましたが、女性の佛を聞いたことはありませんが。

師：私はこのことについて説法の中で幾度となく話したことがあります。男性の佛と女性の佛が両方おり、男性の如来と女性の如来もいます。人間は修煉の中で、羅漢の果位に達したとき、三界を出ることになります。羅漢はただ一つの果位だけではなく、初果羅漢、正果羅漢、大羅漢もあります。羅漢果位まで達した時、男性か女性かに関係なく、この次元で圓滿成就したら、皆男性の姿です。羅漢は三界を出てまず到達する果位です。菩薩果位に到達したら、大菩薩か小菩薩か、または男性から成就したのか女性から成就したのかに関わらず、皆女性の姿になります。修煉して圓滿成就した体が菩薩の境地で圓滿成就したのであれば、修煉の過程での全ての体は皆女性の姿をしているので、未来の体は女性の体になります。もちろん、神は変化するものですが、固定して変わらない体はこういう状況です。もしある人が佛まで圓滿成就したら、男性の姿になります。如来佛に成就したら、男性か女性かに関係なく、本来の姿になります。つまり、その生命の元々の姿になります。世間で修煉していた時の体が違っていましたが、如来佛になった時、その生命の元神の性別によって決められます。もちろん、特殊な場合もあります。ここでは一般的な状況を言っています。実は世の人々は繰り返し転生するもので、男性になるか女性になるのかは福報と因縁関係によって決められています。女性の姿をしている人は、男性から転生したかもしれません。また、女性から転生してきた男性もいます。ここに業力による応報の問題があります。私はここで女性を差別しているのではありません。男性に転生するには、前世で徳を積まなければならない、今まで佛教もこのように言っており、釈迦牟尼も自らこのような話をしたことがあります。男性か女性かに関係なく、良くないこと、またはどちらかの面において良くないことをしたら、来世女性に転生するかもしれません。以前はこういう状況でしたが、現代人にこの問題は存在していません。将来またこの状況が現れます。私の多くの女性弟子は修煉が非常に良くできています。法を得る前わざわざ女性に転生して修煉するようにした人がいます。ここに今までの歴史と関わる原因があります。おそらく女性は大きな業を作りにくいからです。

弟子：周りの人に弘法する時、私たちがここまで熱心に法を学び、煉功し、弘法することに理解できないと言っています。わたし達は師父が教えてくださった最大限に常人社会に合わせて修煉することをやり遂げることができなかつたから、他の人が法を得ることに障碍を作ってしまった。わたし達は既に取り返しのつかない損失を作ったのでしょうか？

師：そこまで深刻ではありません。正しく行えなかつたら今度から改めれば良いのです。皆さんは皆もっと多くの人に法を得てほしいと思い、世の人々を済度し

ようと思っています。この世において、どんなものも無常であり、如何なるものも生まれる時に持ってくることはなく、死ぬ時に持っていくこともありません。ただ修煉だけですが、佛法をいったん得たら、永遠に得ることになります。これは生まれる時に持ってくることができ、死ぬ時に持っていくこともできるものです。ですから、これは最も貴重なものです。したがって、人間に何をあげても、法を与えることより良いことはありません。大法を更に多くの人に知ってほしいと多く人はそうしています。特にこれが最も偉大な真理だからこそ、多くの人に知ってほしいと思い、弘法をしています。今正しく行えなかったら、今度しつかりやれば良いのです。しかし、善を修める者だから、衆生に対して慈悲の心を持つべきです。

弟子：三、四年前に既にたくさんの学習者は功が開き、悟りが開いたのですが、三、四年後の今、まだこの世で苦を嘗めて修煉しています。彼らの次元はまだ絶えず高まっているのでしょうか？

師：このように話しましょう。絶えず新しい人が入ってきて修煉を始めているので、圓滿成就していない限り、続けて修煉しなければなりません。修煉の中で、関をしっかりと乗り越えた人、修煉が速く進んでいる人、精進している人もいれば、関をしっかりと乗り越えなかった人、精進していない人、時間を長引かせた人もいます。圓滿成就したかどうかは、今それを言う必要はありません。まだここにいる限り、どの学習者でも修煉をしなければなりません。

弟子：形のない神はあちらこちらをさすらう仙人のように、天国を持っていないのでしょうか？

師：体を持っていない神と天国を持っていない神は同じことではありません。あちらこちらをさすらう仙人は私が常人の言葉で言ったことであり、私はこのように話しても良いのです。この意味を知っていれば良いのです。つまり、あちらこちらをさすらう仙人がいるということです。例を挙げて説明していますが、あちらこちらをさすらう仙人のようにあちこち回っています。実は以前の道はこういう状況です。道教は後になって作られたものであり、天上では以前道は自分の世界を持っていなかったのです。修煉して圓滿成就したら、宇宙の中で自由自在で、洞穴を見つけてそこをきれいにして、一人で静かに自在にしています。体のない神とは、生じた時から体がない神、または修煉して到達した境地で体があっはいけない神のことを言っています。しかし、このような神は体を作り出すことができます。体のない神は往々にして次元が非常に高いのであって、考えを巡らすだけで、そのとおりになります。しかし、このような神は体を持ちたくはありま

せん。体があることを面倒だと思っています。体があつたら面倒です。このまま
で、何も無く、なんと良いことでしょう。もちろん、私はこのように話していま
すが、人間の考えでそれを理解することはなかなか難しいのです。

弟子：他の空間で生命が生じて存在するようになったら、その次元の法を備える
ようになりますが、その次元で生じるということはその次元で法が生命のために
作った基準によって造られているということです。人間の赤ちゃんのように長い
目覚めの過程はなく、外から何かを学ぶという過程はありません。

師：三界以外、異なる次元で生じた生命は、特に神の空間では、必ずその次元の
生命の基準を備えており、つまりその次元の法によって造られています。神の境
地で生じた赤ちゃんも神です。人間の目覚めの過程は学習の過程にいたっては、
今日のいわゆる発展は物質が変異しており、非人類的で、生命の本性から見ると、
後退しているのです。これは目覚めではなく、謎に入ったのです。実はこれは墮
落する過程であり、純真を失う過程です。人間はこれを発達の過程と言っている
のに対し、神はこれを後退の過程と呼んでいます。

弟子：転生の時、頭にあるものは消されますが、これはどの神がやることなので
しょうか？

師：これは知識を求めているのですね。好奇心ですね。どの神にそれをやらせて
も良いのです。異なる生命は異なる神によって見守られています。しかし、宇宙
の基準はひとつしかなく、あなたが想像しているようなことではありません。皆
非常に自然です。具体的に言えば、三界内の生命の転生を司る神によって行われ
ています。

弟子：尊敬する李洪志先生、トロント法会で海外からやってきた弟子と法会に参
加できなかった弟子から先生にお出しした質問は全部篩い出されました。これに
ついて理解することができません。

師：皆さんの気持ちを私は理解することができます。実は千人、二千人の法会で、
皆質問を出したら、明日の夜にならないと、終わりません。答え切れないから、
どうしたら良いのでしょうか？ 選ばなければなりません。その中で、本当に師
父に解答してほしい重要な質問が選ばれなかったかもしれません。このような情
況であっても、皆さんは法の勉強から必ず答えを得ることができます。実は質問
を選別する時、私は担当の人にある原則を教えました。つまり、政治に関する質
問を出さない、知識を求める質問はできるだけ少なくし、大法の修煉と関係ない
ことをできるだけ選ばないようにすることです。これはわたし達の法会の質を守

るためであり、この目的です。

ここに二つの要素があります。もちろん選別を担当している学習者も修煉の人なので、修煉の中の重要な質問を選ばなかった可能性があります。これはあり得ることです。彼らがこれから更に正しく行うことができると私は思っています。

弟子：ルイ十四世はフランスの歴史上、この上なく輝かしい存在であり、太陽のようです。彼の元神は天上から来たのでしょうか？ ルイ十四世がつまり師父であると私は悟りましたが・・・。

師：私は確かに多くの国に転生したことがあり、ほぼどの人種にも転生しました。転生が多すぎて、やりきれない時もあります。異なる歴史の時期に世に下りて縁を結んで法を得る人がいるので、私は必ず彼らを見つけて縁を結ばなければなりません。転生が多すぎてやりきれない時、分身して転生していました。同じ世の中に私である人物が幾人もいるかもしれません。冗談を言っているかもしれません。(拍手)

弟子：修煉した後、自分が殺生した生命を自分の世界にまで済度しなければならぬと先生はおっしゃいましたが、もしわたし達が羅漢、菩薩までしか修煉できず、または自分の世界をもっていなければ、どうなるのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、在席の全ての学習者に私は圓滿成就の道を開いたのです。どの境地で圓滿成就するかを考える必要はありません。これらのことをどのように扱うかにいたっては、私にその扱い方があります。私はただ概括的に、悪いことをどのように良いことにするのかということと言っただけであり、もちろん方法があります。もしあなたが自分の業力を償いきれず、圓滿成就することができなければ、今日ここに座っていないかもしれません。(熱烈な拍手) 繰り返しますが、私があなたのために按排した道はあなたを圓滿成就させることができなければ、あなたは大法の学習者になれなかったかもしれません。私は皆さんに非常に良い道を按排しましたが、どのように修煉するのかは自分次第です。師父は入り口まで導きますが、修煉は自分次第だからです！

弟子：師父は『轉法輪』の91ページで、「高い次元で修煉するようになると・・・自分の心性を向上させさえすれば、功が伸びますので、手法すらいらなくなるのです」とおっしゃいました。ここでおっしゃっている高次元はどのように現れるのでしょうか？ わたし達はいつになったら如何なる手法をする必要もなくなるのでしょうか？

師：古代の修煉の多くの方法は初期のとき、動作が非常に複雑でしたが、最後になったら全て必要とされなくなります。高い境地になった最後の時、何の手法もする必要はなく、座って静かに修めるだけであり、体を動かす動作はもうありません。しかし、皆さんが今日修煉しているこの大法の場合、以前どのような特徴を持っている生命であっても、今日私が教えてあげたこの方式で修煉しなければなりません。なぜでしょうか？ 私はミクロから表面に向かって絶えずあなたを同化させており、その速度が非常に速いのです。毎日修煉者の変化を目にすることができます。三界に入ると、実は三界内の粒子で構成されている人身は全部人身と呼ばれています。三界に入ると、速度がすぐ遅くなり、ひいては停滞して進まなくなります。人間のこの空間に入ることができず、つまり、人間が修煉して心性が向上してからはじめて、変化が起こるのです。

以前の修煉は表面をまず変化させる方法を取っていました。修煉して間もないころ、ご存知のように、道家は修煉の中で丹を呑む方法を取りました。つまり、できるだけ修煉者の病気を取り除くようにしていました。表面の体に隠れている全ての良くないもの、病業を排斥し、全部出してしまいます。これで体が浄化されることとなります。そして、煉功が始まってから、すぐ表面の細胞を変えます。表面の細胞と分子が変わると、皆さん考えてみてください、この人は既に仙人になりました。次元がまだ高くなく、体の第一層の分子粒子を変えたばかりです。つまり、三界の第一層の天に入り、常人の境地から離れたばかりです。人間にとって、これで神通力が大いに顕れ、人類の全ては彼を束縛することができなくなりました。人間に見えた全ては皆分子によって構成されているので、この次元の分子と細胞が変われば、飛べるようになり、壁を通り抜けることができ、分子以外の粒子で構成されている空間の状況が見えるようになるかもしれません。もちろん、更に次元の高いもの、さらにミクロにあるものを彼は見ることができず、なぜならば、次元はまだ低いからです。

このように進んで修煉して、最高の次元まで修煉したら、低次元で使っていた方法をこれ以上使用してはいけなくなりました。煉功に使用されていた方法と手段を使うことができなくなりました。完全に高い次元まで至ったら、手法が必要とされなくなり、静かに修めるだけで、何の動作もありません。こういう意味です。

しかし、大法修煉はこれではいけません。もし大多数または全ての学習者は修煉の間もない頃、表面から変わってしまえば、皆さん考えてみてください、今日

一億人の人々が大法を修めており、皆最も表面のところから変わってしまえば、皆さんに教えますが、今日の世界に一億の神がいるということになります。人類社会の形式は完全に打ち壊されてしまいます。私たちは常人社会のこの形式を維持しなければなりません。なぜならば、これは宇宙大法が衆生のために切り開いた最も低い次元でもあるからです。人間はまだここで修煉して向上しなければなりません。この環境があるからこそ、私たちは最も速い速度で自らを高め、変えることができます。ですから、わたし達はこの環境を大事にしなければなりません。人類は良くありませんが、人類は私たちを更に速く修煉させることができます。人類の中に人間が思っている様々な真理がありますが、これらの真理こそ、私たちが修煉の中で放棄すべき執着です。今日の人々と古代の人々は、どちらのほうが修煉しやすいのでしょうか？ 社会的な要素は多くありませんが、大事なのは大法が人々を濟度しており、その上、法を正す時期の学習者であるため、私に言わせると、大法を修煉することを通じて、更に高い次元まで到達することができます。しかも最も速く進むのです。古代の時の社会の人々は皆神を信じており、今の人々より本当の道と法を理解することができるので、相対的に言えば、高い次元まで修煉することができません。社会全体が修煉を理解することができるので、相対的に言えば、人間の道徳基準が非常に高かったため、それほど大きな難もありません。今日の社会が悪くなればなるほど、わたし達の修煉の厳しさと偉大さを表わすことができます。それによって、高い次元まで修煉することができます。つまり、こういう関係です。

弟子：瀋陽の弟子は師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます！（拍手）

弟子：今世の人々は皆法輪大法を知っているようです。

師：今はこういう状況のようです。私たちは静かにして社会を妨害せず、修煉者が静かな環境で修煉できるようにしたかったのですが、今の状況から見ると、わたし達は世界の舞台に上がってしまったようです。多くの方はこれで有名人になりました。（笑）話すと非常に面白いのです。わたし達修煉者はこのようになりたくはありません。

弟子：意図的に大法に反対し、人々を惑わす虚言を撒き散らした人が原因で、縁のある一部の人が良い機会とすれ違ってしまいました。大法を破壊した人が作ったマイナスの影響をどのように挽回することができるのでしょうか？ 人為的に大法を破壊した人はその将来はどうなるのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、現在本当に大法を破壊しているのはその数人だけです。氣勢を張っているようですが、たくさんの方がやっているわけではありません。人間は何をやっても、自分で責任を取らなければなりません。でっち上げを造ったりして、本当に悪いのです。本当に悪いのです。私がやはり以前言ったように、大法を学ぶ人がいないのではないかを心配する必要はありません。佛は縁のある人を済度しています。(拍手) 人間が佛法を破壊してしまったら、それは大変なことになるのでしょうか？

弟子：最近起きたことや、師父の6月2日の経文「私の感想」は海外の多くの弟子にとって圓滿成就できるかどうか、自我及び人間の全ての観念を放棄することができるかどうかの試練ではあります。このように悟ってよろしいのでしょうか？

師：皆間違っていない。それぞれ異なる認識がありますが、皆間違っていない。皆正しく悟っています。

弟子：私はいつも動揺しており、毎回の法会の後、後悔してやみませんが、勇猛邁進して精進するようにと決心しても、しばらくすると、また駄目になってしまいます。時に自分は師父の弟子になる資格がないと感じ、師父の慈悲に申し訳なく思っています。本を多く読み、法を多く勉強する以外に方法はないのでしょうか？ 私は本当に確固として修煉したいと思います。他の空間が見えたり、天目が開いたら、良くなるのでしょうか？

師：先ほど「私は本当に確固として修煉したい」と言いましたが、どういう状態でこの言葉を書いたのかに関わらず、この話は純粹であり、あなたの自我です。しかし、後に続く話はまた後天の観念に妨害され、精進できないと感じてしまいました。後天の観念を取り除かなければ、本当に精進することができません。他に方法はありません。本を多く読み、この壁を突破するしかありません。考えたことがあるのでしょうか？ 精進できないこのこと自体は、阻害の現れであり、これを破ったら、どうなるかを見てみてください。

弟子：佛家修煉に八万四千の法門がありますが、各次元が全部含まれているのでしょうか？ 他の空間と…。

師：佛法修煉に八万四千の法門があるということは、釈迦牟尼佛が言ったことです。釈迦牟尼は人間に教えても良いことを話しました。ご存知のように、釈迦牟尼佛自身が宇宙の最終の主ではないので、全宇宙更に広範囲の最終的なことは彼も知らないのです。つまり、釈迦牟尼佛は彼の境地から、修煉に八万四千の法門

があると言ったのです。これは人間に教えても良いことであり、間違ってもいません。人間に十万の法門があると言っても、何の意味があるのかは人間も知らないかもしれません。

釈迦牟尼佛が言った八万四千法門の修煉方式は皆三界内の衆生と関係があるように思えます。他の空間体系については、人間に教えたことはなく、人間はそれを知らないのです。しかし、宇宙の中で、地球のような環境は地球だけではありません。しかし、他は宇宙の中心位置ではありません。

弟子：最近、煉功点は弘法の活動を行い、学習者はそれにある程度の時間を使いました。しかし、一部の活動は効果がないように見えます。

師：弘法の効果のいかにについては、皆さんは自分の力の範囲でできるところまでやれば良いのです。旧勢力、私が言った旧勢力は本当の魔ではなく、腐敗堕落した各次元の生命であり、正の生命も負の生命もいます。旧勢力は皆私を助けていると思っていますが、実はそれらの助けは、かえって私にとって障碍になりました。阻害の要素があるから、私たちの弘法は影響され、新しい学習者はなかなか法を得ることができません。法を得た人も、旧勢力によって、法に対して無関心になり、勉強しなくなりました。これらの問題も解決されているところです。これらの困難に打ちのめされないようにしてください。行うべきことを行ってください。これらの問題は皆解決されています。

弟子：弘法は圓滿成就と関係はないと師父がおっしゃいましたが、弘法は神聖なことであり、法を得ていない人の命を本当に救うことができます。弘法に興味がないのも、自分自身が突破すべきことではないのでしょうか？

師：弘法と圓滿成就とは別々の概念です。この二つの概念の間に直接的な関係はありません。圓滿成就はあなたが厳しく修煉し、修煉の道を終えて、圓滿成就の境地に到達してはじめて、圓滿成就になるのです。弘法は修煉の過程の中で大いなる慈悲心を持つ人としてやるべきことであり、個人の向上のほかにやるべきことです。しかし、あなたが弘法のときに行った全ては、ただ常人の中の福報になるわけではありません。なぜならば、あなたは来世また人間になるとは思っておらず、圓滿成就するので、弘法のために行った全ては修煉の中の慈悲と衆生を救済することと関係するようになり、修煉の中で威徳の樹立の一部となりました。

弟子：女の子がおしゃれをするのは天性なのか、それとも執着なのでしょう？

師：女の子がおしゃれするのは、今執着と言えないと思います。女性はそういう

天性だからと言っている人がいますが、実は女性としてこの面に気を配るべきです。だらしくしていれば、誰が見ても、良いとは思いません。しかし、あまりに派手にすると、逆効果になってしまいます。私が良くないと言っているのではなく、常人がそれを見て良くないと思っているかもしれません。身だしなみは気をつけるべきものです。天上の神佛菩薩はこの上なく神聖で美しいのです。彼らの体の粒子は極めてミクロ的な粒子によって構成されているため、その肌は非常にきめ細かいのです。その時になると、わざわざきれいにする必要もなくなります。

弟子：師父は『轉法輪』の中で、「定められた天寿を越えた、延長された生命は、すべて煉功するために与えられたものであり、間違った考えが浮かんだだけで命の危険を招くことがあります」とおっしゃいました。この話を具体的に説いていただきたいのです。私は三年あまり修煉しており、たくさんの病気が治り、何十年も飲み続けていた薬をやめました。今六十を越えましたが、四十歳の時よりも元気です。修煉のほか、自分にできることもやりたいと思っていますが、大丈夫でしょうか？

師：もちろん大丈夫です。法の勉強と煉功に影響していなければ良いのです。天寿を超えるというのは、もしある人が数十歳までしか生きることができなければ、その年になると、死んでしまいます。しかし、もうすぐ定められた年になる時、彼は修煉を始めました。良い素質を持っており、修煉を始めて、すぐ非常に精進しています。その人の年とは関係なく、私も年を見ていません。ご存知のように、張三豊は70歳あまりの時、道を得たのであって、130歳まで生きました。70歳あまりから修煉し、正式に修煉を始めたのです。つまり、修煉は年とは関係なく、あなたが精進できるかどうかの問題です。本当に生死を放下することができ、どんな年でも、既に法を得た以上、年などを気にせず、ひたすら修煉し、(拍手)、本当に自分を修煉者として見なし、自分を常人のように対処せず、このようにすることができれば、あなたの生命は絶えず修煉しており、絶えず延長されています。命はますます延びていき、あなたの修煉に間に合うようにします。しかし、精進できない人がおり、今生圓滿成就するまで精進できず、これ以上寿命を延ばしてはならず、寿命になると、死んでしまいます。今生成就するまで修煉することができず、来世のことをも邪魔してしまいますが、どうしたらよいのでしょうか？ 死んでもらうしかありません。つまりこういうことです。ですから、年を取った人は数十年の間、この世の風雨の中で世の全ての執着、一生の間求めていることはたかが知れていることだと分かっており、自分はそれを分かっているはずなのに、まだ放下できないことがあるのでしょうか？ しかし、言うのは簡単

ですが、行うとなるとやはり難しいのです。

弟子：今回北京と天津で起きたことは私を大きく悟らせ、向上させてくれました。修煉者であっても、肝心かなめな時はなかなか真善忍をやり遂げることができませんが、彼らは「真」を本当にやり遂げました。彼らは本当のことを話しに行ったのであって、善意からこのようにしており、修煉者の基準に合っていない如何なることもしませんでした。彼らは穏やかな気持ちで忍耐しています。本当に法輪大法を修煉している弟子は決して師父の気持ちを無駄にすることはありません。師父、ご安心ください。私が言ったことは正しいのでしょうか？

師：正しいのです。実践の中で、私は既に目にしました。私は「私の感想」という文章の中で、「人間それぞれに自分の志があります」と書きました。私はこの一生の中で他でもなく、このことを行っており、修煉できる人の圓滿成就のために責任を負っています。圓滿成就できるかどうかの大きな関を学習者が一つ一つ乗り越えてきたのを見て、私はどういう気持ちなのかご存知でしょうか？！（熱烈な拍手）素晴らしいのです。本当に素晴らしいのであって、さすが偉大な神です！ ノストラダムスがある時期は人間と神が共に存在する時期であると言ったのを私は覚えています。彼が何を指しているのかはともかく、本当に皆さんを常人と見なしてはいけないと思います。人間に放下できないことを皆さんは放下することができ、人間に耐えることができないことを皆さんは耐えてきました。ですから、人間は皆さんを理解することができません。しかし、できるだけ人間に理解されるようにしてください。(笑)

弟子：修煉の中で、どのように大法の厳粛さと圓容の関係を正しく対処すべきでしょうか？

師：大法は厳粛であり、人間が修煉して圓滿成就しようとするのが厳粛でないことがあり得るのでしょうか？ 大法に少しだけのずれがあっても、修煉の人は圓滿成就できなくなってしまう。邪法は人間を偉大な神まで修煉させることができるのでしょうか？ 決してできません。ですから、法は厳粛であり、大法弟子一人一人は必ず到達する各境地の基準に達しなければならず、これは厳粛なことです。修煉の中で取り除くべきものを取り除かなければならず、少しでもいい加減にはいけません。大法は人間を濟度することができ、宇宙の全てを造成することができます。大法に異なる次元の法理があり、各次元の法理はこの法全体と繋がっており、上下においても、内外においても、ミクロとマクロにおいても、お互いに繋がっているのです。如何なる次元においても法は単独で貫通しているので、どの角度から法を見ても、法は圓容であり、はっきり説明すること

ができ、破られることはなく、法理から全てのことを円満に説明することができます。なぜなら、この宇宙は法によって造られたので、もちろんこの法は至るところに存在している真理と万能な真理を円満に表わすことができます。法は全ての良くないものを良いものにし、宇宙の中の全てと衆生を救うことができます。今まで成、住、壊、滅が存在していたのではありませんか？ 大法は壊滅に向かっている全てを再び新しく素晴らしいものに戻すことができます。法は全ての作用を働かすことができ、万能なのです。ですから、この大法は絶対的に圓容不破なのです。(拍手)

弟子：私は4月25日の後、大法を迫害している人から大法のことを聞いて、大法を知るようになったのです。僅か二ヶ月ですが、既に大法の博大さと奥深さを感じました。

師：悪い人は悪いことしか耳に入れることができませんが、良い人は良いことを聞くことができます！ 邪悪の徒が大法を罵るとき、少なくとも「法輪功」という三文字を言わなければならないのです。この学習者は「法輪功」という言葉を聴いて、良いことが耳に入りました。(拍手) 佛法は人間に破壊されることはありません。邪悪が悪人を利用してわたし達を破壊するたびに、実はわたし達のことを広めていることになっています！(熱烈な拍手) しかし、悪い人はその心がやはり悪いのであって、これは間違いのないことです。これはその生命の位置なのです。

弟子：どのように自分の大法に対する高い認識を固めることができるのでしょうか？

師：私が皆さんに教えているのは法理であり、学習者も当初この法理が良いと思って、学びにきたのです。徐々にこの法理はただ人々に良い人になるようにと教えているだけではなく、これは修煉のための本であり、佛法、天法、宇宙大法であると認識するようになりました。これは学習者が徐々に認識したことです。(拍手) ですから、如何なる考えも抱かずに修煉したほうがもっと良いのではないかと私は思います。毎日佛の世界に行きたいと思っていれば、実はこれも執着になってしまう恐れがあります。求めずに自ずと得るというように、ただ修煉すれば良いのであって、全てが自然に現れてきます。現れてきたら、かえって全てが自然なことだと思えるようになります。なぜなら、その境地に達したから、自然だと感じたのです。人間は他でもなく、人間の境地におり、自分の境地より高い境地のことを知りたいと思っており、皆こういう心です。修煉者はその境地にいるとき、それが見えても、驚くことなく、非常に自然だと思っています。

弟子：広州の弟子は非常に先生に会いたがっています。

師：ありがとうございます。今は何とも言えません。(笑) 今はまだできません。

弟子：南京多倫路煉功点の大法弟子と南京の全ての大法弟子は慈悲深い師父にご挨拶を申し上げると同時に、最高の敬意を捧げたいと思います。

師：ありがとうございます。

弟子：北京、蘭州、ハルピン、チチハル、内モンゴル、広州、上海、武漢の全ての大法弟子は師父にご挨拶を申し上げます。師父、ご安心ください！

師：ありがとうございます。

弟子：康熙大帝の徳政は後世の君主に模範を示したのでしょうか？

師：康熙大帝の一生は比較的偉大であり、康熙と乾隆のときの繁栄ぶりは歴史上伝えられています。人間のことにについてこれ以上触れませんが、康熙は偉大な皇帝です。

弟子：私は師父を悲しませた質問を出したことがあります。

師：別に悲しむことはありません。多分私は他のことを考えていたかもしれませんが、私が考えていることは皆さんが考えていることと違います。皆さんは表面の形式を見ているようですが、私に真実の現われが見えています。

弟子：夢の中で出てきた色魔は主人です。これも魔の妨害なののでしょうか？

師：ご主人がそばにいるのではありませんか？ 夢の中に出てきたのはご主人ではないに違いありません。きっと演化されたものです。気をつけるべきです。

弟子：妹は漢方医学の学校の学生であり、来学期の必修科目に気功があります。この授業を取らないほうが良いのでしょうか？

師：漢方医学学校の学生ですね。そうですね。今の中国の医学校も漢方医学における気功の直接的な医療効果を認識するようになり、学生を学ばせています。しかし、私が知っている限り、中に正法門の気功は非常に少ないのです。気功が普及し始めた頃、幾つかの良い気功がありましたが、その後、偽気功が徐々に現れてきました。最初現れてきた比較的良かった功法は太極拳です。現在太極拳はでたらめに改ざんされてしまいました。改ざんされたら、必ず害があります。その

後、易筋経が現れました。太極拳は道家のものであり、易筋経は佛家のもので、以前少林寺の和尚の内修功法のもので。その後、民間の修煉方法五禽戯がありました。これらのものは人類にとって良かったのです。他にもありますが、一々触れる必要はありません。今は皆でたらめな憑き物の功法であり、もし学校がそれを学生に学ばせたら、学生に害を与えてしまいます。

弟子：修煉者の基準をもって自らを量っていますが、時々私が真に修煉の弟子として師父に認められていないのではないかと心配しています。しかし、他の人は私が悪くないと思って、最近なんと私を補導員にしようとしています。補導員にふさわしくないと分かっており、大法のイメージを損なってしまうのではないかと心配しています。

師：恐れていることはちょっと多すぎるようですね。実は補導員にそれほどたくさんのごことはなく、何かの幹部でもありません。毎朝煉功点に行って皆さんの煉功と法の勉強を取りまとめたりするだけで、多くのことはありません。あれこれ恐れなくてください。自分の修煉が良くできていないと思うこと自体は良いことであって、自分の足りないところに気づいています。欠点と間違いに気づいたら、恐れなくてください。欠点と間違いがあれば、それを取り除けば良いのです。執着と間違いがなければ、修煉する必要もありません。修煉の過程に皆常人の心があります。これは間違いのないことです。

弟子：苦難に遭っているとき、これが関だと分かっており、できるだけ心が動じないようにしています。しかし、嬉しいことがあるとき、どうしても喜んでしまいます。

師：それなら、喜んでいれば良いのです。大丈夫です。自分が難しいと思う関を乗り越えられないより、喜ぶことは随分良いことです。実はこの嬉しく思う心はあなたの境地が高まるにつれて自然に消えてしまい、意識的に抑制する必要はありません。もちろん、嬉しいことがあるとき、有頂天になって喜んでいれば、良くないのです。皆理性と教養のある人なので、これは問題ないと思います。しかし、苦しく思う関に遭うとき、それはつらいのです。

弟子：(一) 覚者に次元の高低があるのでしょうか？

師：もちろんあります。如来も皆同じ次元ではありません。彼らは法王であり、修煉者は彼らのことを如来と総称しています。さらに大法王もあり、更に次元の高い大法王があります。

弟子：(二) もし覚者に次元の高低があれば、次元の低い覚者の生命は次元の高い覚者に按排されるのでしょうか？

師：これはあなたが思っているようなことではありません。人間の考えで神のことを考えないでください。考えても分からないのです。しかも不敬なことでもあります。如来まで修煉したら、彼の能力範囲内で、全てが思うままになり、できないことはないのです。

弟子：私は早い段階で法を得た学習者です。もしわたし達が最大の努力を払っても、自分自身の根基が良くないため、修煉が終わるその日に圓滿成就できなかったら、師父について行くことができるのでしょうか？

師：最大の努力を払って修煉してもと言っていますが、あまりに自信がないようですね。最大の努力を払って修煉しても、圓滿成就できないとなれば、どこかが間違っていることになります。この話は矛盾しています。(笑) この問題はありません。精進していれば良いのです。自分がどういう根基なのかあなたにも分からないので、なぜ根基が良くないと言えるのでしょうか？ 最大の努力を払ったら、あなたを待っているのは他でもなく、圓滿成就なのです！（拍手）

弟子：地球を粒子、例えば分子として見ている場合、地球という分子で構成されている物は人間より次元が低くなったと思います。なぜならば、次元が高ければ高いほど、それを構成している物質もますますきめ細かいからです。

師：私はこの宇宙の全てを全部明かすことができません。しかし、皆さんに教えますが、物質がきめ細かくてミクロ的であればあるほど、次元が高いのです。しかし、地球が最も低い次元にあるということも皆さんに教えました。この最も低い次元は大きい粒子と小さい粒子の間にあります。つまり大きい粒子よりも小さい粒子よりも低いと言うことを私は皆さんに教えました。真ん中にあるので、最も低いのです。これより次元の高い粒子についても説いたことがあります。それは人間より次元の高いものです。

弟子：テープレコーダーがないので、煉功の時大法音楽を流す代わりに、数を数える方法で動作を変えることをしてもよろしいでしょうか？

師：大丈夫です。当初煉功の時、私が学習者に教えていた時音楽はなかったのです。数を数えていたのです。修煉はなんといっても超常的なことであり、自動的な機制があるので、機制が強くなる時、九回を終えたら、両手は自動的に下腹部でたたむようになります。ですから、煉功の時に機制にしたがって動くという言い方があり、機制がいったん形成したら自動的に動くようになり、機制が体を

導いて煉功しています。きっと自動的に煉功しています。学習者に音楽を聞かせながら煉功するようにと教えた目的は、初めて学びに来た人ができるだけ早く雑念に妨害されないようにするためです。音楽を聴いていれば他の事を考えられなくなります。この一念をもって他の念に取って代わっており、こういう方法を取っています。音楽を聴くこと自体も一つの念だからです。更に、私は音楽の中にも法と功の内涵を加え、修煉に対して補助的な作用を働かせることができました。これは煉功の時音楽を聴くことの目的です。

もし、動作が正しければ、音楽のない状況下で煉功しても同じであり、影響はありません。

弟子：煉功をもって寝ることを代替することができるのでしょうか？ このようにしてもよろしいのでしょうか？

師：だめです。これでまたもう一つの極端に走ってしまったからです。修煉の過程の中でこの体で修煉しなければならないので、この体がなければ、修煉ができなくなります。ですから、食事も睡眠も取らなければならず、この体の健康を守るために寝なければなりません。仕事が忙しくなって、または大法のために忙しくなって、数日間寝れなかったら、どうしたら良いのでしょうか？ これは偶々のことだから、違う話になります。煉功をすれば、すぐ回復することができます。長期的に煉功して寝ないで、煉功で寝ることを代替しようとするならば、これではいけません。大法はこのように修めるのではありません。なぜこのように修煉する必要があるのでしょうか？ 修煉にとってもっと重要なのは、心性の向上こそ本当にあなたに向上させることができるのです。心性が向上しなければ、いくら煉功しても向上することができません。これは人為的に行うことではなく、無理強い煉功を高めることではありません。心性が向上しなければ、いくら煉功しても向上することができません。

弟子：株は良くないと分かっていますが、その本質を理解することができません。アメリカの会社は株を福祉として従業員に割り当てていますが、これも不義の財なのでしょうか？ 株は会社が発展するための資金集め的手段なのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、人間が正しいと思っていることは必ずしも正しいとは限りません。特に、人間の道徳が悪くなった時、人間に良いと思われているものは悪いものであるかもしれません。ご存知のように、働くことによってお金を得たり、自分の智慧と努力によって儲かったり、または商売が大きくなって、あなたにそういう能力があれば、皆正しい方法で金を儲けています。いくら儲かって

もかまいません。投機の方法なら、やはり良くないと私は思います。なぜならば、この宇宙に失わないものは得られずという理があるからです。この金が儲かった時にどのくらい良い物を失ったのかあなたには分からないのです。あなたが努力しなかったからです。株は上がったたり下がったりしますが、人間の心はそれにしたがって動いてしまいます。修煉者はこういうことをしてはいけません。誰かが金持ちになったら、飛び降り自殺を凶った人が出ているかもしれません。株は実はギャンブルです。修煉者としてギャンブルをするべきなのでしょうが？ 私に言わせると、そうすべきではありません。もちろん、私は常人社会の常人がどのように株に対処すべきなのか、人間が株の売買をすべきなのかについて話しているわけではありません。それは常人のことです。私はここで修煉者に修煉の道理について言っているだけです。皆さんは常人を超える状態がなければならず、もっと高い基準で自分に要求しなければなりません。そうではありませんか？ 会社から福祉または給料の一部として支給された株は直接換金することができます。

弟子：修煉者は親族の業力を肩代わりすることができませんが、なぜ業力のない子供は私たちの業力を肩代わりすることがあり得るのでしょうか？

師：多分その子供は親が関に遭っているとき、あまりに苦しんでおり、本当にできていないのを見て、一部肩代わりしているのかもしれませんが、あなたはなぜ子供が私のために苦しんでいるのかと、ありがたく思っていない。(笑) ただ一つの道理を説いているだけで、必ずしもこういう状況ではないかもしれません。しかし、大法弟子の子供だけにこういうことがあります。

弟子：五歳の子供は二年間修煉しており、額にテレビがあり、師父は昼夜に説法してくださっていると述べています。これは妨害なののでしょうか、それとも正常な状態なののでしょうか？

師：子供の場合、これは妨害ではありません。多分こういう方法を通じて子供に法を得させているのかもしれません。しかし、決して子供の睡眠に影響することはありません。

弟子：常人社会の中で、極めて魔性の強い勢力が広範にわたって大法を破壊し、ひいては撲滅しようとする状況下で、大法を圓容する方法とは何でしょうか？

師：最後まで大法を修め、頭を切り落とされても体はまだ座禅していると私に言った学習者がいます。(拍手) 人間の考えが動じなければ、如何なる強制的な方法も表を治めることしかできず、根本を治めることができません。修煉の中で、私は道理から人々を分らせているのであって、もし形式から人間を管理し、こ

のようにしてはいけないということをしたら、できることなのではないでしょうか？ そうではありませんか？ もちろん、どのようになって、どんなに妨害されても、何も動じなければ最も良いことだと私に言った学習者もいます。もちろん、これは考えが動じないのであって、人間が動かないということではありません。

弟子：毎日弘法のことばかり考えるのも魔に利用されてしまうのでしょうか？

師：弘法のことを考えるのは間違いではありませんが、修煉に影響しないようにすべきです。弘法のこととは大法弟子として確かに行うべきことなのです。

弟子：西洋社会で人々は歯の美しさを重視していますが、弟子として歯をきれいにしてもよろしいのでしょうか？

師：したければしても良いのです。これはたいしたことではありません。ただ自分をきれいにしたいと思っただけです。これは常人のことです。

弟子：釈迦牟尼佛とイエスが法を伝え人間を済度していたとき、宇宙の衆生は既に法からずれてしまったのに、なぜそのとき法を正さなかったのでしょうか？

師：彼らは如来だけなので、宇宙の法を正すことができません。彼らは自分の法を正すことしかできません。

弟子：先生にお伺いしたいのですが、全ての人は既に圓滿成就のための試練を乗り越えたのでしょうか？ 乗り越えられなかった人はこれからまた機会があるのでしょうか？

師：これについて話してはいけません。まだあると教えたら、あなたは用意して待っていれば、試練にならないのです。皆圓滿成就でき、どのくらいの人が圓滿成就したのかについても話してはいけません。

弟子：アメリカで長く住んでいるので、国内から来た人、特に貧しい学生をいつも助けたいと思っています。これは憐憫の心だと思います。法輪大法を修煉してから、この心について葛藤があり、助けるべきかどうか分からなくなり、心の中で激しく戦っています。これは常人の情なのか、それとも昇華した慈悲なのではないでしょうか？

師：故郷の人に同胞の気持ちを抱くことは間違いではありません。貧しい人を見て助けてあげるのも間違いではありません。しかし、修煉者は修煉に多くの精力を注ぐべきだと私は言ったのです。多くのことの因縁関係はあなたに見えないのです。あなたが助けたその人が将来大法を破壊する人になったら、どうするので

しょうか？ もちろん、あなたが助けた人が皆将来大法を学びに来る人であれば、これは功德無辺なことです。将来彼はあなたに善い報いを与えます。如何なることに対しても、修煉者としての高い基準をもって自らに要求しなければなりません。お寺を建てるのが良い事だと言っている人がいますが、実は私に言わせると、釈迦牟尼まで有為の法は幻のごとく、水泡のようだと言っています。自分を修めなければ永遠に上に行くことはできず、町中にお寺を建てても、佛になれません。なぜならば、あなたは修めていないからです。常人の心でこのことを図っており、佛のために多くのお寺を建てたから、佛は便宜を図ってくれて、上に上らせることはありません。こういうことではありません。修めなければ誰も上に上がっていきません。逆に言えば、あなたが立てたお寺の中に佛はおらず、佛は行かないかもしれません。狐、イタチ、蛇、鬼によって占領されているかもしれません。それなら、あなたはそれらの悪者を助長し、悪いことをすることになります。つまりこういう関係です。人間にはそれを見抜くことができませんが、わたし達修煉者は分かっているはずです。

弟子：『法輪大法義解』の 72 ページに、「本当に続けて修煉できる人は、更に修煉することができると思います。更に修煉したい人の場合、親族友人の業力を持ってきて、それを消したら徳になるのです。いずれにせよ、非常に難しいことであって、その人の心性は心の容量と相補っているのです。ですから、そこまですると、容量がいっぱいになって、それ以上入らなくなります。こういう現象があります。更に苦を嘗める人の場合、容量が足りないから悪くなり、落ちてしまい、修煉が無駄になってしまうことがあります」と書いてありますが、最後の一文をどのように理解すべきなのでしょう？

師：もし本当にこういう状況があっても人々を高い次元まで修煉させる方法があることを法理から説明しているのです。修煉者は関が大きすぎて耐えられなくなると、他の極端に走ってしまう可能性があります。常人が相手を指摘する時、あまりやりすぎてはならず、やりすぎると、相手が受け入れられなくなり、すぐにもう一つの極端に走ってしまう恐れがあります。これは常人が適切に問題に対処できていないということです。修煉の場合も同じです。そこまで修煉したとき、大きすぎる難をあなたに与えたら、本当に危ないのです。関を乗り越えているときに、これはあなたの関であり、修煉のためだとあなたに教えることができます。あなたに教えることができるのでしょうか？ あなたには教えないのです。もう一つは、修煉が圓滿成就した人は必ずすぐ悟りが開いてしまいます。これは間違いのないことです。そこまで修煉して既にいっぱいになったのに、まだ悟りを開いてあげなければ、既に極限に達しています。悟りがまだ開かなければ、そ

の人は絶望してしまいます。絶望によって、彼はもう一つの極端に走ってしまいます。これは極めて危険なことです。つまりこういう意味です。

弟子：撫順と西安の学習者は師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。

弟子：国内で法輪大法を修煉している親族は、外からの妨害があって、煉功点で煉功できない状況下で、家で修煉し、修煉の心も変わっていませんが、これは彼らの圓滿成就に影響するのでしょうか？

師：『轉法輪』の中でこれについて私は既に説きました。家でやっても外でやっても皆同じです。しかし、お互いに高めあうという条件を失ってははいけません。大法は学習者を圓滿成就に向かわせることができますが、学習者も大法に圓容しなければなりません。

弟子：将来師父が自ら詠う『洪吟』を聞く機会があるのでしょうか？ ビデオテープにして・・・。

師：将来、機会があればできます。

弟子：人に優しく接するべきであり、女性の弟子は柔でなければならないと師父がおっしゃいましたが、多くの場合、異性に誤解を与えることがあります。異性に対して常人のような態度で接したほうがいいのでしょうか？

師：もちろんでそうです。何かを話すとき、どうしても男性のようにならないといけないのでしょうか？ 女性は女性らしく、何をしても女性らしくすれば良いのです。私はただこのように教えているだけです。誤解を与えるということにいたっては、正常であれば大丈夫です。人と接する時に、やりすぎないでください。鷹揚に振る舞っていれば、きっと問題ありません。

弟子：主人がアメリカ人で、私は大法を得てから彼に紹介しました。彼が本を読んでいるとき、法輪が彼の頭上で回っているのが私に見えました。しかし、ある日、彼は急にヨガを習い、ヨガが体を元気にしてくれたと言って、毎晩それを行っています。

師：一部の物事に対して、冷静に見るべきです。自分のどこかに問題があったのではないかと、まず自分を見るべきです。もしそうでなければ、きっと魔の妨害です。しかし、妨害であっても、自分に問題があっても、ご主人に道理から話すことができます。人間は皆理性を持っているからです。私たちは心性を守らなけ

ればなりません。相手が間違っても良いのですが、私たちは間違っただけではありません。もし、心性を守ることができれば、しばらくすると、これらのことが過ぎてしまいます。長く続くことはありません。最後に、彼はきっとわたし達の修煉の次元の突破によって変化するのです。きっとそうなります！（拍手）

弟子：自分の願望と無私無我の関係についてお話をいただけませんか？

師：常人の考えを修煉の状態と一緒に混ぜないでください。あなたが言っている自分の願望は常人の執着であるかもしれません。修煉の中で皆さんが無私無我に到達すべきだと私は皆さんに要求しましたが、皆さんが人為的にやり遂げることのできることはありません。しかし、修煉の中でこれをやり遂げられるように努力しなければ、修煉ではなくなります。つまり、無私無我とは何かをまだ知らないのに、修煉してすぐ無私無我になるべきだと言って、このように無理強いで行ってはいけないということです。全ては修煉の向上の中で認識するようになってから、やり遂げることができるようになるのです。

弟子：主人が大法の本を破り、大法に対して多くの不敬のことを話したことがあります。また、大法に不敬のことを何回かしたことがあります。私は非常に辛いのです。主人は大法の本を読んだことがありません。

師：以前大法を理解することができず、このようなことをしましたが、後で法を得た人が座席の人々の中にいます。自分の何かのことが原因でそうなったのか、それとも本当に妨害があるのかを見てみてください。しかし、妨害であれ、修煉の中で現れた状態であれ、学習者は心性を守っていなければなりません。人間は悪事、間違ったことをしてもよいのですが、私たちはこのようにしてはいけません。実は人間は何をやっても、償わなければなりません。大法を破壊することの罪は非常に大きいのです。

弟子：大法弟子が煉功と法の勉強に非常に熱心であるのを見て、周りの人が理解することができず、ひいては大法を始めるのをやめています。これは弟子が最大限に常人の社会状態に符合して修煉していないからなのでしょう？

師：それなら、どのように熱心にやっているのかを見るべきです。もし学習者がいつも煉功と法の勉強ばかりをして、家事も仕事もしなければ、それではいけません。更に普段煉功のとき、皆黄色い服を着ていれば、常人に宗教と見なされ、常人が入ってくることができなくなります。もし、煉功のとき、皆普段の服を着て、普通の人と同じようにし、できるだけ周りの人と同じようにしていれば、煉功しにきて法を得る人が現れてくるかもしれません。

弟子：目の前に透明の風船のような膜が回っており、既に二年余り経ちました。膜の中に多くの黒い点が変化していますが、これは玄関と関係あるのでしょうか？ 師父にご教示願います。

師：そういうことかもしれません。それぞれの具体的な状態について私は明かしたくはありません。このようにしたほうが皆さんの修煉にとって良いのです。

弟子：私に一歳の混血児の孫娘がいます。二十四時間彼女と一緒にいます。私が本を読んでいるとき、彼女はいつも轉法輪と師父の法像に口を付けたいと思っています。法を得させるために、師父の説法の録音を彼女に聞かせても良いのでしょうか？

師：もちろんできます。もちろんできます。大法弟子の子供は常人の子供とはやはり違います。

弟子：北京海澱区大法弟子を代表して師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます！ 拍手

弟子：修煉の中で自分の執着心をえぐり取り除けば取り除くほど、常人が持っている各種の執着と執着の中の汚さを認識することができます。どのような心でこのことに対処すべきなのかを師父にお伺いしたいと思います。

師：これは正常なことです。しばらくの修煉を通じて、こういう感じ方があります。常人社会で形成したこれらのことは常人社会のすべての人々に存在しており、常人にはそれが気付かないのです。皆さんがそれに気付いたのは修煉の中で常人を超えたからです。しかし、それを排除し排斥する考えを持っていなければなりません。

弟子：佛家の法輪、道家の陰陽と十方世界のすべてが全部法輪の中に現れているという文を翻訳しているとき、佛家の法輪を達嘛輪に訳しています。達嘛輪と大法の中の法輪との間にどういう区別があるのでしょうか？ ご教示願います。この達嘛は英語の中で佛教の教えを指しています。師父は既にこの文にある二つの法輪を中国語の音声表記を使って法輪に直訳すべきだと指示しました。

師：そうです。直訳したほうが良いのです。直訳しなければならない言葉があり、確かに法輪の本当の意味合いをなかなか反映することができない言語があります。ですから、翻訳できない言葉があります。私はこのように思っています。達嘛輪を使ってはいけません。なぜならば、内涵が違うからです。

弟子：(一) 今月初めのとき、世界日報が引渡しのことを書いてあるのを読んで、本当につらかったのです。私はいつも一人で師父の法像の前で涙を流しており、師父の代わりに中国に帰ってこの難を受けようという考えがあります。

師：皆さんの心を私は全部分かっています。

弟子：(二) 師父が多くの多くのことをやってくださったから、私がそうなったのか、それとも私は人間の心をもってこのすべてに対処しているのでしょうか？

師：違います。そうではありません。全部違います……。この考えがあるのも自然のことです。(拍手)

弟子：主人が離婚を言い出して、それに同意しなければ、徳を失うことになるのでしょうか？

師：他の人が何かをして、あなたが徳を失うことはありません。しかし、これらのことに対して自分で判断すべきです。なんといっても自分を煉功者、修煉者に見なすべきです。離婚はやはり良くないことであり、こういう場合相手をなかなか説得することができません。しかし、どんな状況もあり、中に何かの心を取り除くためという状況もあるかもしれません。どんなことがあっても私たち自身が正しく行わなければなりません。

弟子：私が常人の勉学と生活を正しく扱うことができず、もし離婚が仕方ないことであれば、どうなるのでしょうか？ 私は大量に法を勉強しても突破することができませんでした。私はこの情を放下してこのことを受け入れれば、修煉者としての基準に合うことになるのでしょうか？

師：修煉者の基準に従って行うべきだと私はこのようにあなたに教えるしかありません。多くの人はこの方面において放下できないものがあります。学習者が離婚してしまったということがあるのを私にも分かっています。どのように言ってもだめで、一緒に暮らすこともできなくなってから、離婚するしかないと思ったら、相手が本当に離婚されそうになるのを感じ取って、これ以上何も言わなくなりました。学習者が本当に心から放下することができ、意地になって争っているのであれば、相手も離婚を取りやめ、かえって法輪功をやりたければやってもいいと言ってくれます。こういうこともあります。しかし、一律全部このようになるわけではありません。確かに離婚してしまう人もいますので、このように教えるはいけません。修煉者の基準に従って行うべきだと私はこのように教えるしかありません。自分が正しく行ってから、事態がどのように変化するかを見てくだ

さい。

弟子：武漢で煉功していた時、煉功点の補導員から、姉は古くからの学習者ですが、色欲の関をずっと乗り越えていないということを知りました。私は姉が本当の修煉者ではないと思っています。これは私の個人的な認識であり、この認識が正しいのでしょうか？

師：これはそれぞれの状況に応じて考えるべきだと思います。夫婦の間のことならこのように見てはいけません。なぜならば、最大限に常人に符合して修煉するようにと私は教えたからです。あなたが修煉したことが原因で夫婦の仲や家庭生活に影響してはいけません。私たちは常人のところで修煉しています。最大限に常人に符合して修煉すべきです。もし夫婦の間のことではなければ、学習者としてこれは大きな問題になります。

弟子：私は画家であり、今仕事を持っていますが、時間のあるときにいつも何かを描きたいと思っています。しかし、法の勉強の時間を使ってしまわないかと心配しているため、いつもこういう考えを抑えています。私は法輪功を始めてから、向上心を失い、以前の目標を放棄したと家族と友人に思われています。私は常人社会に符合して、自然に任せて、描きたいことを描いたほうが良いのでしょうか？

師：ここで二つの問題についてお話します。一つは、あなたは仕事と法の勉強の関係を正しく扱うことができなかつたのです。正しく扱うことができれば、絵を画くことや創作に影響することはありません。私たちは皆仕事を持っており、皆社会の一員であり、多くの人がこの関係を非常に正しく扱うことができます。先ほど記者にもこのことを言っていました。法を学んで、執着がなくなったら、どのように描くのでしょうか？ 常人の智慧は非常に限られており、智慧を絞りに絞って、食事も睡眠もろくに取れないほど、考え、推敲して創作して、やっと出来上がりましたが、良いものであるとは限りません。修煉者の場合、絵画が専門で、これを職業にしていれば、自分の仕事をしっかりこなすべきです。修煉の中であなたの思想境地もあなたの修煉とともに昇華しており、常人を超える思想境地で創作していれば、智慧を絞って考える必要がまだあるのでしょうか？ あなたが描こうとする全て、表現の手法、芸術の成果はきっと常人を超えるのです。こういう関係ではありませんか？ しかし、どんな状況であっても、絵を画くときに時間が必要です。このことは私に分かっています。こういう状況でも正しく関係を扱うことができます。毎日法の勉強と煉功に使う時間を決めて、残りの時間に仕事をすればよいのです。影響することはありません。

更に、ここであなたはあることに言及しました。絵を画く人はひらめきを重んじるのです。ひらめきが来たら、それを画きたい情熱が現れます。何を描くべきなのでしょう？ あなたに創作の意欲をもたらしたその考えからどういうものが現れたのかを見るべきです。修煉者の基準に合っていないことを当然描いてはいけません。修煉者として常人社会で最大限に常人に符合して修煉すべきですが、もし常人の道德まで符合しなくなったものであれば、描いてはいけません。それを描いてしまったら、業を造り、悪事を働くことになります。あなたが描いた絵は他の人にも見せなければなりません。もし本当に美しいものを描くのであれば、どうぞ描いてください。

すべての質問への解答は終わりした。今日の質疑応答はここまでにします。皆さんありがとうございます！（長時間の拍手）

どんな厳しい環境下でも、皆さんは心を落ち着かせるべきです。いかなる心も動じなければすべての変動を制することができます！（熱烈な拍手）